

第 1 回小牧市教員の多忙化解消推進委員会会議録

1 開催日時	令和 8 年 7 月 1 3 日（月） 午前 1 0 時 0 0 分から
2 開催場所	小牧市役所東庁舎 本会議用控室
3 出席	櫻本委員長、東岡副委員長、光部委員、鈴木委員、辻ノ上委員、中本委員、滝藤委員、井上委員
4 欠席	富田委員、松浦委員、松岡委員
5 事務局	■学校教育課 櫻井課長、大久保管理指導主事、山口指導主事、山下係長 ■教育総務課 丸藤課長
6 傍聴者	0 人
7 議題	（１）小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について （２）その他

＜開会 午前 1 0 時 0 0 分＞

1 開会

【櫻井課長】

皆様、本日はお忙しい中、ご出席をいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより、第 1 回小牧市教育多忙化解消推進委員会を開会いたします。私は司会を務めさせていただきます、小牧市教育委員会教育課長の櫻井と申します。よろしくお願いいたします。

＜資料確認＞

まず初めに資料の確認をさせていただきます。本日配布させていただきました資料として、まず初めに次第ですね。続いて、本日の推進委員会の皆様の名簿、本推進委員会の設置要項小牧市教員の多忙化解消プラン小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況。そして資料の 4 として、令和 7 年度市内小中学校在校時間記録、令和 7 年度の超過勤務 45 時間超の主な理由です。そして資料の 6 として、小牧市立学校の教育職員に関する 業務量管理健康確保措置実施計画ですね。あと、最後に、座席表です。以上の資料となっておりますが、ご不足等ございませんでしょうか。

＜傍聴について＞

本委員会は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき、開催するものでございます。そのため、個人が特定可能な議題などを除き、原則、公開として開催させていただきたいと思い

ますが、よろしいでしょうか。ありがとうございます。なお、本日のこの会議の傍聴の方はいらっしゃいません。それでは、開会にあたりまして、大久保和則管理指導主事より挨拶を申し上げます。

(1) あいさつ

【大久保管理指導主事】

おはようございます。学校教育課の大久保です。よろしくお願いいたします。この会の中で本当に様々なことが今までも話し合われてきました。昔ですと、子どもたちの登校時刻と教員の勤務開始時刻のことについて話し合った時期もありましたし、学校の電話対応は何時開始、何時に終わりということについて話し合ってきた時期もありました。それぞれ成果を上げながら、心の中で話し合ってきたことが現場の方でも活かされてきているすごく大切な会になります。そうした中で、昨年度、給特法が改正をされ、その中で教員の在校時間、時間外在庫時間が月 30 時間程度を目標とすると明確に示されました。今までも本当に多忙化解消に向けていろいろとこの会の中でも話し合いを進めてきたのですが、さらにもう一歩進めていかなければいけないという時期に来たということを感じております。それに伴い、小牧市の方でも、小牧市立学校の教職員に関する業務量管理、健康確保措置実施計画というものを策定しております。各学校の方でもこちらの方を参考に、いろんな計画、目標の方を立てていただいておりますが、ここからさらに、多忙化解消を推進していくとなったときに、毎回同じ話をさせていただいておりますが、子どもたちを置き去りにしてはいけません。この多忙化解消ということが、最終的には子どもたちの利益につながっていくものでなければいけないと考えています。子どもたちあつての学校、子どもたちあつての取り組みという部分をやはり考えていく。先生たちが多忙化を解消していくことによって、子どもたちに良い教育、質の高い教育が行われていく。そのようにつながっていくものであるべきだと考えております。本当に難しいことで、知恵を絞りながらやっていくしかないのですが、皆様から忌憚のないご意見をいただきながら、何とか新しい方向性を見つけ出していけたらと思いますので、またお力をお貸しください。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

(2) 委員の委嘱について

【櫻井課長】

それでは司会を進めてまいりたいと思います。着座して失礼いたします。委員の委嘱についてであります。皆様方におかれましては、ご多忙の中にも関わらず、ご参集いただきました。ありがとうございます。委嘱状につきましては、本来であれば一人ずつに、お渡しするのが本意でございますけれども、時間の関係上、大変恐縮ではございますが、あらかじめ関係の委員の皆様の上に用意をさせていただきました。よろしくお願いいたします。それでは、大変恐縮でございますが、委員の皆様より自己紹介をお願いしたいと思います。

名古屋経済大学	東岡 宏 様
小牧市区長会連合会長	富田 賢史 様

地域コーディネーター	光部 明美 様
小牧中学校長	櫻本 寛之 様
米野小学校長	鈴木 久代 様
一色小学校長	辻ノ上 実友希 様
小牧小学校教頭	中本 道夫 様
小牧南小学校教諭	滝藤 宏充 様
応時中学校教諭	井上 祥子 様

なお、小牧市PTA連絡協議会 松浦 一将 様、松岡 大輔 様につきましては、本日は所用によりご欠席でございますのでご紹介させていただきます。

続きまして事務局の紹介をさせていただきます。

学校教育課	大久保管理指導主事
教育総務課	丸藤課長
学校教育課	山口指導主事
学校教育課	山下係長

私、学校教育課長の櫻井です。よろしくお願いします。

以上、よろしくお願いします。それでは続きまして、会議の運営等について担当者よりご説明を申し上げます。

（３）会議の運営等について

【山口指導主事】

失礼します。恐れ入りますが、資料 1 小牧市教員の多忙化解消推進委員会設置要項をご覧ください。まずは、第 1 条及び第 2 条をご覧ください。この委員会は、令和元年度に策定された資料 2 小牧市教員の多忙化解消プランの進捗管理を行い、その見直しや多忙化を解消するための具体的な取り組みについて検討し、教員の多忙化の解消を図るために設置するものです。第 3 条、組織等ではありますが、この委員会は、学識経験者、学校関係者、地域住民の代表者、児童生徒の保護者、地域コーディネーターの代表者等、11 人以内の委員組織し、任期は今年度中です。第 4 条、この会議は委員長、副委員長を置きます。委員のご選定を定めるとしてありますので、後ほど委員の皆様にご審議をお願いします。第 5 条、会議は委員長により招集され、議事につきましては委員長に取り回しをお願いするものであります。以下につきましてはご覧をお聞きください。よろしくお願いいたします。

2 委員長、副委員長の選出について

【櫻井課長】

会議の運営等について事務局よりご説明申し上げました。ご質問があればお受けいたしますが、よろしいでしょうか。それでは続きまして、委員長と副委員長の選出をお願いしたいと思います。

先ほどもご説明申し上げましたが、委員長、副委員長の選任については、委員の互選により定めるとされております。恐れ入りますが、委員の皆様より立候補あるいはご推薦をいただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

【辻ノ上委員】

委員長に櫻本委員、それから副委員長に東岡委員をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【櫻井課長】

今、辻ノ上委員から、委員長には櫻本委員、副委員長には、東岡委員という発言がありました。委員の皆様、委員長と副委員長の承認につきまして、いかがでしょうか。ご異議なしということでしょうか。ありがとうございます。委員の皆様、ご異議もないということでございますので、委員長には櫻本委員、副委員長は東岡委員をお願いしたいと思います。それでは、櫻本委員に関しては、大変恐縮でございますが、委員長席へご移動をお願いいたします。

(席移動)

それでは改めまして、委員長にご就任いただきました櫻本委員にご挨拶をいただきたいと存じます。櫻本委員長、よろしくお願いいたします。

【櫻本委員長】

改めて、おはようございます。実は先ほどあった多忙化解消プランの最後のページが、当時の委員長の中谷先生が小牧中学校時代じゃなかったかなと思います。たまたま本校が今年、創立 80 年。小牧山から移転して 30 年というところの年だったものですから、過去の資料を見ると、「天下の牧中」という言葉だったり、「牧中は不夜城」という言葉があったり、そんなものを拝見することがありました。多分、その当時だとそんなことが当たり前のような時もあったのかなと思っていますし、今、委員の先生方を見させていただいても、なんとなく若い頃はそんな方ばかりだったような印象も受けます。ただ、時代が変わって、先ほど大久保管理指導主事の方からも話がありました。考えていかなければいけないのは事実だと思いますので、何かしらご意見いただいて、そこに向けて一年かけて考えていけたらいいかなと思います。以上です。

【櫻井課長】

ありがとうございました。以降の進行をお願いします。

3 議題

(1) 小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について

【櫻本委員長】

では、早速ですが、一時間程度の会と伺っておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、議事の 1 番、小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について、事務局より説明を求めます。

【山口】

改めまして、資料3をご覧ください。先ほど申し上げた小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況についてまとめたものです。多忙化解消に関わる具体的な取り組みとして、大きく4つあげられます。1、長時間労働の是正に向けた在校時間管理の活性化。2、業務改善に向けた学校マネジメントの推進。3、部活動指導に関わる負担の軽減。4、業務改善と業務整備に向けた取り組み、の大きく4つに分けて取り組みをしております。令和7年度に変わった点としましては、長時間労働の是正に向けた在校時間管理の適正化における電話の受信を控える時間の設定について、があります。毎年4月に教員の働き方改革に関わる取り組みとして保護者に案内を出しています。その中に、令和7年度は、「原則18時30分以降は電話の受信を控えさせていただきます」という記述に追加して、「教職員の定時退校日と教職員の退校に合わせ、勤務時間終了後から18時30分以前の応答メッセージへの切り替えを行う日もあります」という文言が明記されています。次に、学校における在校時間管理についてお話をさせていただきます。資料4をご覧ください。令和7年度市内小中学校在校時間調査でございます。月ごとに超過勤務時間を45時間から80時間、80時間から100時間、100時間超の人数として集約しております。令和7年度におけるそれぞれの人数の割合、を令和6年度を比較しております。表の一番下のところに、それぞれの割合の差を示しました。黄色のセルが令和6年度と比較して人数が減っている部分になります。ここ数年の傾向になりますが、全体的に超過勤務45時間超の職員の方が減少傾向にあると考えられます。4月は割合が多くなるなど、月による偏りがありますが、今年度は、特に行事等が多い10月において割合が大きく減少していることは大きな成果になるかなと考えております。次に、資料5超過勤務45時間以上の主な理由をご覧ください。45時間超の職員が在籍する学校において、超過勤務が45時間超となった主な理由を学校長が一つ選択するという調査が毎月あります。小学校では学年、学級事務が44.8%、続いてテスト採点、成績処理等となっております。中学校では学年学級事務が30.3%、次いで行事に関する業務が19.1%となっております。この2つで約半分を占めております。学校現場の実態や、工夫していること、保護者や地域の視点で感じていることを、率直なご意見をいただき、今後参考とさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。以上です。

【櫻本委員長】

ありがとうございます。昨年度の実態も踏まえての報告がありましたが、これらも見えていただいて、先生方につきましては、学校現場においてどんな実感なのかなということや、また、地域の方から見ていただいて、率直なご意見があればいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【鈴木委員】

米野小学校の鈴木です。今、在校時間の記録の資料を出していただきました。これは、令和7年度ですけど、本年度の本校の職員の現状を見てみると、在校時間は確かに短くなっております。ただ、部分休を取得している子育て世代の職員が増えましたので、在校時間が短くなったから、

イコール多忙化が解消された、にはつながっていないかな、ということを思っています。学校を早く出て、家に帰って、子供の世話をして、それから家で仕事をするっていう職員も増えましたので、なかなかこの資料が多忙化につながった根拠となるのかというのがちょっと…小学校ではなかなか当てはまらないなと思います。

【櫻本委員長】

フル勤務の人で時間外在校時間等が 45 時間から減っている、そのように感じることはありませんか。

【鈴木委員】

あります。確かに遅くまで学校に残っている職員がいるので、何をしているのって聞くんですけど、無駄なことはしてなくて。次の日の授業の準備をしたいという気持ちがある。だから職員の意識改革をしないと、教員の仕事ってキリがないので、どこまでも教材研究をすればどこまでも時間がかかるし…そこをまた考え直さなきゃいけないなとは思っています。

【櫻本委員長】

ありがとうございます。意識改革という言葉が出てきました。後半で意識改革ということについて、各学校で事例を持ち寄れるものがあれば、そこでも挙げていただけるといいかなと思いました。今、せっかく米野の実態を教えていただいたので、順に各校の様子を聞かせてもらっているですね。小牧小はどうですか。

【中本委員】

私は本年度から小牧小学校なので、まだ把握できていない部分がありますが、ここ数年の今まで勤務してきた学校も含めてですけれども、年々時間外在校等時間は減ってきているんだろうなっていうのは感じます。それはやっぱり、多忙化解消プランが少しずつ進められて、行事の精選や、カリキュラムマネジメントが進んだということがやはり大きいと思います。ただ、先ほど鈴木先生がおっしゃったみたいに、進んできてはいるけど、やはり一定数残られている方がいらっちゃって。そうあってはいけないと思うんですけど、分掌に若干の偏りが出てしまったりだとか、近年は多様な子どもたちがいるものですから、突発的な対応が少し増えてきたりだとか。そういったところで減りはしてきているけど、その減る率は、緩やかになっていっているのかなっていうような感じがあります。

【井上委員】

早く帰られる方はちょっとずつ増えているのかなという印象はあります。ですが、その方がどの分掌を持っているかによって、やっぱり遅くに帰る方は多くいらっしゃいますし、決して、業務がすごく改善されているとか、お仕事が精選されている印象は、あんまり感じてないかなと思います。先ほど 10 月や 1 月の時間外在校等時間が減っているということなんですけども、少し縮小されたりとか、やり方が変わったりっていう小さな変化はあるとは思いますが、行事はあま

り変わってないかなと思います。以上です。

【櫻本委員長】

南小学校お願いします。

【滝藤委員】

校務主任という立場で、一年とちょっと勤務させていただいている実感としては、やっぱり早く帰れる若い人たちはいるという印象はありますし、色々と市として取り組んでいただいている成果は確実に出ているかなと思っています。先ほど鈴木先生もおっしゃったんですけど、多様な働き方があるので、この前PCのリモート操作に不具合が出た時に、すごく多くの先生から「これはいつ解消されますか」という相談がありました。ということは、それがないと仕事ができない方が一定数いらっしゃるのだな、きっと家でたくさんの仕事をやられているのかなということのを思いました。4月が昨年度から始業日が遅くなったこともあって、本当にいろいろな取り組みに関して確実に成果が出ているなっていうのが正直な印象です。ただ、自分がちょっと気になっているのは、前の学校から今の学校に移って一番思ったのは、職員室でノートを積んでいる先生があまりいないなっていうのを思いました。前の学校は山のようにノートを積んで見ている方が非常に多くて、結果としてそれが遅い時間までの勤務につながっているのかなという印象だったんですけど、今の先生方はノートが積んでないなと思って。一体いつ見ているのだろうということを思っていて、自分が見てないところで、もちろんノートを見ているのかもしれませんが。本校で遅くまで残っている人は、何をしているのかなというのを見ると、退勤が遅い人はすぐ学年のことを話していたりだとか、学級経営に関して主任とすごく綿密に話をしている人であったりとか、起案が出てくる時に、何か非常に練り込まれた起案をする先生とか、子供の最近の状況とか、保護者とのやり取りを聞いた時に、すぐに資料が出てくる方が非常に多いなと思っています。ちょっと失礼な言い方をすると、早く帰られる方は、その辺がちょっと雑な傾向にあるような気がしていて。大久保先生が最初に言われた通り、多忙化解消として早く帰ることと、質をどう両輪で成立させるのかということころは、やっぱり検討していかなければいけないと思います。あとは、教頭や校長がすごい量の仕事を抱えていらっしゃるなという印象もあります。以上です。

【辻ノ上委員】

私はずっと中学校にいて、今年から小学校ですので、小学校の先生、割と早く帰られるという印象がありますが、決してサボっているわけではないことはよくわかっています。ただ、無駄なことっていうか、これは明日でいいんじゃないっていうことは、もう明日に回すってように声をかけるようにしています。あとは、働き方改革という言葉が独り歩きして、「働き方改革でこれをなくしましょう」という発言があるのが非常に気になって。大事なことは変わらないので、それをするためにどう工夫するか、頭を使うかということだと思っていますので、そちらに力を入れていきたいなと思っています。以上です。

【櫻本委員長】

今伺っていると、時間外在校等時間のことだけではなくて、中身の部分が大切なのかなという印象を ました。じゃあ、外部の方というか、光部委員、聞いてみてどうですかね。

【光部委員】

最近気づくことは、小牧小学校は今ちょうど個人懇談の時間でありまして、早く下校してきます。そういった形で子どもは早く帰ってきますけれども、保護者の方というのは、やはり仕事を終えてから来校しますので、かなり遅い時間にお見えになる時があります。そうすると、先生方きつと 5 時、6 時、7 時近くになるまで、教室で待ってみえるんだらうなっているのを感じます。そういったところって、いろいろ先ほど辻ノ上委員もおっしゃったんですけど、働き方改革ってということで、朝早くから子ども、お子さんを預ける親御さんもいらっしゃいますし、遅くまでお子さんを預けるお子さんもいらっしゃるので、なかなか先生方の対応は大変なのではないかなというふうに感じております。

【東岡委員】

去年もこの会に出させていただいて、本当に感じたことは、僕、現場を離れて 6 年経つんですけども、明らかに時間外在校等時間記録が激減しております。それは 大学では小学校の教育実習を担当しているので、学生の振り返り、あるいは反応とか、そういうものを見てもそうですね。明らかに変わっている。全員が小牧市じゃないんですけど、やっぱり全体的に減っているというのが事実です。ただ、やっぱりちょっと言いにくいことですが、小牧市じゃないところから、いろいろ大学に対してお話があるときに、必ず教頭先生あたりが「働き方改革の一環として」ということで、指導案を書かせる時間がないとおっしゃることがあります。それってどうなのって、やっぱり本当にさっき言った質ですね。どこでバランスをとるのかっていうのは、やっぱりここに見える方は皆さん現場ではリーダーだと思しますので、指導案を書かせるなどはしてあげてほしいかなっていうのは思いますね。

【櫻本委員長】

ありがとうございます。後半の方で、意識改革や質という部分が話題になってくるといいかなと思います。今、時間外在校等時間の実態を言っていただきました。昨年度から、定時退校日で 6 時半前でも留守電にすることがありますよという旨を、4 月当初に保護者に配布した文章にも記載していたと思います。皆さんの学校ではどのように留守電を使っていますか。

【滝藤委員】

実際に 6 時半前とか留守電にしているよ、とかっていうのはわからないかもしれません。自動で設定がなされているので、設定を変えない限りは常に 6 時半なので、毎回ボタンを押しているわけではありません。自動で、朝も誰も押さなくても 7 時半には解除されますし、6 時半には自動で切り替わります。設定は変えられるんですが…なので、毎回の留守電操作は行っていないです。6 時半前に職員室が空っぽになるような時は押します。というか、誰かしら管理職がいるので、

そこでちょっと調整しています。

【鈴木委員】

米野は6時半に留守番電話を設定するんです。でも、ちょっと早く出なきゃいけない、管理職がいなくなるような時あるじゃないですか。そういうときは職員に「この後って電話かかってくる予定ありますか」って聞いて、来ないと言うんだったら、ちょっと管理職いなくなるから、「もう留守電でいいかな」って言って留守電にします。

【辻ノ上委員】

だいたい6時半です。過ぎちゃったっていう時もありますが、誰もいないっていう時には、早い時間でも押すこともあります。もちろん鈴木先生がおっしゃったように、こちらから電話をかけて、折り返しがあるということが分かれば、もちろんそのままにしておきますし、その日によります。

【中本委員】

小牧小は、同じような感じです。同じような形で、原則6時30分ですけど、管理職がいなくなったり、出張とかいなくなったりだとか、定時退校日のときはちょっと早くなる。そんな感じです。ただ、教務の先生も気にしている時があり、6時半までいた方がいいのかなって、黙って残ってくださっている方もいます。

【光部委員】

たまになんですけども、担任の先生から。何年何組の誰々くんの保護者の方が見えたら、一度電話をくださいとお願いされることがあります。そうすると、そのお迎えというのがだいたい19時ぐらいなので、それぐらいになってしまいますよ、いいですか、という確認は取りますが、お迎えが見えたときにお電話したことがあります。7時近くだったと思いますが、そういうことがありました。

【東岡委員】

聞き間違えたかもしれませんが、6時半に自然に留守電が入るのですね。そして、それより早く管理職が帰るときは、もっと早く留守電を設定するのですね。ということは、管理職が6時半まで残ることが前提なんですかね。管理職が帰ったら留守電が入るというような感覚ですか。

【櫻本委員長】

そうですね。意識としては管理職で設定をしていますけど、進路指導の時期になってくると、こっちからかけて折り返しを待つようなのがあるじゃないですか。だからそういう時には電話がかかってくるし、終わったら留守電にしておいてねっていう。かかってきたら履歴見てかけてねっていうような時もありますね。

ありがとうございました。今、事務局の方からありました6時半以前に留守電対応をすること

があるか、という部分を話題にして聞きましたが、他よろしかったでしょうか。

では、様々伺いましたが、先ほども意識改革だったり質の部分だったりというところで、資料6を見ていただきながら、そういったところも話題にしていけたらいいかなと思いますが、いかがでしょうか。2 ページ以降のところ、実施する業務量管理、健康確保措置の内容で、学校以外が担うべき業務であったりとか、教師以外が積極的にであったりとか、そういったものもあるかと思います。この中で4 ページを開いていただくと授業準備とありますが、ざっと見ていただいて話題になるところがあればお出しただけるといいかなと思います。

（資料を確認する時間）

本当に短い時間ですが、今のところ見ていただいて、学校の中で意識されているようなことがあれば教えていただけるといいかなと思います。

とりわけ、15 番の授業準備だったり、17 番の学校行事の準備だったりを話題にしていたくと、先ほどから話題になっているような、質であったりとか、意識改革の部分につながっていくのかなと思います。先生方の学校でもし話題があればお出しただけるとありがたいかなと思います。

（生成 AI で作成されたポスターを示しながら）たまたまこれ、コンピューターに堪能な職員が多いものですから、生成 AI を使って、学年テーマポスターを作り、教室に掲示がしてあったんです。これなんか学年のテーマを決めて、これで絵作ってと AI にお願いしたら、ポスターを作ったそうです。これを四枚合わせぐらいのポスターにして、廊下に貼っています。体育祭の場合は、学年種目、台風の日、と AI に考えさせて、一年生の写真見せて、簡単に作っていました。台風の日だけど、学年テーマが桜なので、スプリングハリケーンっていうのも、どうも AI からアイデアをもらったみたいです。また、前回、修学旅行を台風で延期にした学校の校長先生が、その後日程をすぐ作り直した。どうやったのって聞いたら、今回の中止にした案を AI に打ち込んで「7 月に案を作りたい、どんな案ができる」と投げかけたら、案が6つか7つ出てきたそうです。それをもとに業者と練っていくと聞くと、生成 AI を参考にした部分の質は高くなるのかな、って感じたことはありました。これは、一例ですが先生方のところではどんな様子ですかね 教室だったり、授業準備だったりそういったところとか、学校で工夫されているようなことがあれば教えていただけるといいかなと思います。

【鈴木委員】

授業準備のところ、なんですけれども、授業で使ったような資料やデータを共有フォルダーに入れていて、この教材の時にはこういうものが使えますよ、という情報共有をしています。確かに教材研究の時間は削減されたという良い面と、それを作るためにどんな授業にしよう、どんなふうに子どもたちに投げかけよう、どこで投げかけよう、どんな言葉で投げかけよう、どういう教材の配置にしよう、というような教材研究の時間が減ったことも事実で、やはり質の担保っていう面では、教員が楽をしちゃうと、教員の質の向上は目指せないかな、というところで、多忙化解消と力量のアップをどう両立させるか、というところはやはり課題です。

【井上委員】

若い先生方が、授業事務とかをすごく効率的にやられているなどか、感じます。クラウド型授業支援システムを活用して、以前だったら紙で配っていたものをクラウド型授業支援システムに配布するとか、そういうところで、ちょっとした手間をはぶいていらっしゃる方が多いのかなと思います。その半面、ただデータを配って資料としていいのかなって、いう気持ちもあります。本来紙で書いた方が、子どもたちの力になるのになって思うこともあります。若干簡略化されているような印象もあり、子どもたちの力をつけるためにということで、懸念がありました。

【中本委員】

授業準備に関連してなんですけども、小学校に限らないですけども、効率的に準備される方が増えたかなと思います。それとはちょっと別で、教科担任制というのもしょろり入ってきていると思うんですけども、本校でも教科担任制を進めて、一つの学年、自分の学年で、交換するような感じで、教材研究する教科を絞ることで、それぞれ全部の教科をやるよりも教材研究の量が減るので、その分一つの教科に力を注ぐことができ、時間をうまく使えるっていうのは出てくると思います。

ただ一方で、最近若い先生方多いので、毎年毎年経験を積み上げていくつもりが、実は全然社会はやったことがないとか、そういうような弊害じゃないですけど、そういった偏りが出てくるのはちょっと心配だなっていうのはあります。

【滝藤委員】

小牧南小学校は教科担任制がかなり進んでいると思います。去年は、一人の担任が全学年の国語を担当するぐらい教科ごとに割り振りしていて、それはすごく良かった面もあって、教材研究の時間の短縮もあったし、同じ授業をやることによって、毎回の授業がブラッシュアップしていくということもあったし、何よりも学年の子どもたちの顔、名前が全員わかるようになったことなど、それは非常に良かったなって思います。反面、授業研究の時に、今までより授業研究盛り上がってないなと思ったら、結局国語を担当している先生が、その先生しか学年にいないので、うちのクラスはこうやったよっていう意見がなくて…また、学年の先生と「これってどうやってやりましたか」という質問や、今までは教えてもらっていたことや、相談、すぐ見学に行くことができなくなっていると思います。違う学年の先生に聞くことはできるんですけど、リアルタイムじゃないし、生じゃないので、そういう弊害もあるんだなっていうのを思いました。

それ以外にも、自習とか、出張とか、休みで先生がいない時にちょっと支援体制が組みづらいという弊害もありますが、良い面と単純に悪い面、両方あるんだなっていうのを実感しました。次年度以降の方向性を年度末反省で話した時は、結構意見が分かれて、続けてほしいという方もいれば、ちょっとなんかやりにくかったから戻してほしいという方もいたので、このあたりを学校として統一していくのも悩みかと思います。

【櫻本委員長】

中学校だと元々教科担任なので、教科担任にすると、小学校で改善された部分はあって、想像していなかった弊害がちょっと起こって、という話がありました。中学校ではなぜ起こらないん

だろうなと思ったんですけど。

【中本委員】

教科部会のつながりの強さなのでしょうか。中学校経験がないのでわかりませんが、中学校の経験者の方からすると、もうちょっと教科の人数多く、そこでちょっと相談とかできたような気はすると言っていました。教科担任制でいいんですけど、小学校での教科担任制は、教員の絶対数が少なくって。空きコマ数が少ないことによって、コミュニケーションが取りづらい状況も発生しているところはあるのかなと思います。あと、単純に教科は担当しているんですが、専科とは限らない。結局自分の担当する他の教科も持ちつつ、学年の授業も2回やるよとか、だいぶハードなやり方をしているそういう時もあったりします。

【滝藤委員】

図工が一番苦手なんだけどな、と言いながら図工をやっている人もいます。

【鈴木委員】

米野は4クラスの学年で教科担任をするときに、4クラスを2クラスずつに分けて、2人が同じ教科を2クラスずつするっていうことで、相談しながら運用しています。

【辻ノ上委員】

さきほどの櫻本先生も紹介してくださった、ポスターとか、何か企画するときに生成AIに頼って、それを上手に活用することはいいんですけど、それで本当にいいのかなって思うことが結構あって。例えば、私も一色小学校に来て3ヶ月程度たちますが、昨年の反省で、運動会の時に校門付近にタバコの吸い殻がいっぱいあったという話を聞いて、子供にポスター書かせようって私が言ったんですね。そしたら先生たちは、子供たちはささっとアプリを使って作るので、大丈夫ですよって。そうじゃなくて、手書きでやらせたい気持ちを持ちました。下手でも子どもたちの手でポスターを作るとか、若い先生たちであれば失敗しながら授業を作り上げていくとか、そういう昔ながらの泥臭い部分も必要なんじゃないかなと思います。無駄な時間を省けばいいと思うんですけど、そのバランスがすごく難しいなと思っています。

【櫻本委員長】

そうですね。先ほどのポスターで一つ言うと、たまたまその主任が合唱の学年合唱の指揮者募集ということを、合唱コンクールの様子の写真を一枚入れて、生成AIを使いました。そうしたら、マスクもポスターに書いてあったんですよ。合唱はマスクなしでやるからと言って作り直さないといけない。やっぱり最後、そのまま完成じゃなくて、人間が見てあげないと。しっかりと見て、それをもとに検討しないといけないなって。手間になってしまったり、間違ってしまったりとか、考えと違う部分が伝わることもあるので、そこは気をつけなければいけない。手間をかける部分と、手間を抜く部分とだと思います。ちなみに一色小も教科担任制を行っている

んですか。

【辻ノ上委員】

しています。高学年でしています。すごくうまく機能しているようです。小学校って、担任の先生がしっかりと教室に入っている人間関係のうまくいかない時の辛さみたいなものがある気がします。中学校って、ちょっとこう一線引いて、自分の教科だけ教えますけど。その距離感がかえって良かったりしていましたが、小学校ではそれが難しいってということもあり、学年の別の先生がそのクラスに入ること、距離感がうまく保たれるっていう部分も見ていて思いました。中学校へ向かってって言うところですね。なんか弊害もあるようですが、つなぎになるということになります。

【櫻本委員長】

教科担任というのは一つ話題になったのかなと感じますが、先ほどもう一つ出てきた生成 AI や意識改革というような部分で、学校で意識されていることとか、こんなことが挑戦できたよとか、そんなようなものがあれば教えていただけるといいかなと思います。東岡さん、大学の方で何かこう推進されているようなことってありますか。

【東岡副委員長】

スマホですね。会議がこれです。こんなこと言っただけいけないけれど、しょうもない会議あるじゃないですか。本当に遠くまで行って 10 分で終わるような。そのような会議は、メール審議で承認します。あとアンケートを活用します。二次元コードはもうしょっちゅう作りました。僕でもできるようになりました。だから、もう皆さんの学校でも、当然のように生活の中にあると思います。そういう使えるものは使って、時間短縮します。生み出した時間を使って、しっかり話し合いをするのは、正直言って廊下です。本当にやっぱり顔を見あって、廊下で話し合っています。それを使い分けていますよね。

【櫻本委員長】

光部さんのところで何かありますか。ご自身のしていることでもいいんですけど。

【光部委員】

中学校の学校運営協議会の方にも参加させていただいているんですけど、マイ探求っていうのが、すごく今力を入れてやってみえるんですね。特に去年は始めたばかりということで、なかなか「タブレットを見て終わり」っていうこともあったんですけども、今回は先生方もかなり意見をアドバイスができたとか、上手に調べたり、生徒自身も上手にできたということで、その質は上がっているんじゃないかなと感じました。発表を聞いて、そんなふうに思います。

【櫻本委員長】

昨年からマイ探求もありますね。今、話題にあがったことの多くは、教科担任の部分だったり、

その行事取り組みの精選っていうのだったりということですね。先生方、もし何か言い残したことがあれば。よろしいですかね。次回には、今の教科担任の部分であつたりとか、行事の精選であつたりとか、そういった部分で学校でこんなところがあったよ、と情報交換するのも良いのかなと思います。本日出された意見等につきまして事務局で検討していただいて、また提示していただくことは可能ですか。(はい。)では、以上上で(1)の議題については終わらせてもらってもよろしいですか。

(2) その他

(委員長)

続きまして、(2)その他につきまして、事務局よりお願いしたいと思います。

(事務局)

特にありません。

(委員長)

それでは、私に与えられました議事の司会につきましてはこれで終了させていただきますので、事務局にお返ししたいと思います。

【櫻井課長】

委員の皆様、長時間にわたりまして、ご審議、誠にありがとうございました。次回ですけれども、第2回の推進委員会につきましては、12月に小牧市役所での開催を予定しております。改めて、皆様のご都合を確認させていただきまして、開催日が決定しましたご連絡を差し上げたいと思っております。お忙しいところ恐縮でございますが、よろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして、第1回小牧市教員と多忙化解消推進委員会を閉会といたします。本日は誠にありがとうございました。